

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4679500126
法人名	インターナショナル・ホスピタル・サービス株式会社
事業所名	グループホーム 岬
訪問調査日	平成19年6月29日
評価確定日	平成19年7月30日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4679500126
法人名	インターナショナル・ホスピタル・サービス株式会社
事業所名	グループホーム 岬
所在地	鹿児島県大島郡知名町田皆2241番地 (電話) 0997-93-1502
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成19年 6月29日

## 【情報提供票より】(平成19年 6月 8日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 9月 17日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート、一部鉄骨 造り 2 階建ての 1 階 ~ 1 階部分
------	--

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

## (4) 利用者の概要(6月 8日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 76.4 歳	最低 66.11 歳	最高 93.6 歳		

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	沖永良部徳洲会病院 松尾歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

穏やかな住宅街の中にあるホームでは、開設当初から近くのゴミ捨て場の掃除に入居者と職員が一緒になって取り組むなどして地域に溶け込み、入居者がこれまで生活してきた住み慣れた地域で暮らし続けることを目指している。台風の際には、近隣の高齢者が避難して来られたり、学校帰りの子供たちが気軽に立ち寄り遊んで行くなど、地域からの信頼も厚い。また、島内の他のグループホームと連携して、交換研修や勉強会を行うなど、サービスの質の向上に向けて研鑽を積み、地域全体で認知症高齢者介護の充実のために取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価における改善課題はなし
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	毎年の自己評価及び外部評価を振り返りの機会として位置づけ、管理者及び職員が協力しながらサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの目的や方針、看取りの実際や認知症及び評価への取り組みと結果が報告されている。参加者からも数々の意見が出されているが、地域住民の代表より、グループホームなどの施設や郵便局、学校、駐在所などの載ったマップがほしいとの要望があり、作成に向けて、字の代表の方や町の担当者との協議を進めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が気軽に訪問し、何でも相談できる関係作りに重点的に取り組んでいる。また、入居の際の説明書類の中に、苦情受付窓口として管理者の他、第三者委員と行政機関が明示され、ご家族からも意見、要望が寄せられて運営に反映されている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自分たちのホームを理解していただくために、開設当初から近くのゴミ捨て場を入居者と職員が毎日一緒に掃除するなど、地域の一員として取り組んでいる。その結果として、近所の子供たちを始め、多くの人々がホームを訪れるなど、地元の人々との交流が図られている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の季節行事に参加して、その繋がりを保つことを方針に明示するなど、地域の中でその人らしく暮らし続けていくことを支えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り後に理念の唱和を行い、管理者と職員の間で思いを共有するとともに、日々のケアにおいて理念の実践に向け話し合いも行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の各種行事や会合に積極的に参加したり、小学生の職場体験を働きかけることにより、日常的に子供たちがホームを訪れるようになってきている。また、毎朝近くのゴミ捨て場の掃除を入居者と職員が日課としており、地域の方とのなじみの関係が築かれ、交流が盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議等、定期的な会議の中で職員全員で自己評価が行われている。職員も評価の意義をよく理解しており、サービスの質の向上に向けた改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された、ご家族や地域代表、町からの要望、助言、資料提供を受け業務改善に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日々、町の保健福祉課担当者とは行き来して、情報交換に努めている。町の栄養士の方より食事についてのアドバイスを頂く等、具体的な助言や指導をもらいながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の写真を載せたお便りを、毎月ご家族宛に送る他、健康状態の変化等については、面会の際や電話により随時報告している。金銭管理や職員の異動についても、適切にご家族に報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が気軽に訪問し、何でも相談できる関係作りに取り組んでいる。また、重要事項説明書等入居者への説明書類の中にも、苦情受付窓口として、ホーム管理者の他、第三者委員、行政機関が明示され、ご家族からも意見、要望が寄せられ運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限に抑える努力をするとともに、やむを得ず代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐべく、異動や離職がわかった時点で、勤務日数や時間を徐々に減らしていくなど配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会、協力医療機関の勉強会、外部研修等が計画的に実行されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内のグループホーム相互の交換研修会や、老人保健施設の夜勤研修(夜間の緊急時対応のため)など、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問の活動が積極的に実施されており、地域としてのサービスの質向上のための取り組みが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族の希望を考慮しながら、入居前のホーム見学により、職員との関係やホームの環境に馴染んでいただくなどして、徐々にサービスを開始している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ハーモニカを吹いたり、昔の歌を教えてもらいながら一緒に歌う等、入居者の生活歴を十分把握した上で、その人らしく暮らせるよう一緒に支えながら支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話や日々の暮らしぶりの中から、それぞれの思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、ご家族から情報を得るなど本人本位に検討されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人、ご家族、職員が一体となり、担当者会議でそれぞれの意見や気付きを出し合いながら介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しの他、入居者の状態の変化に応じて随時、ご家族や職員の意見を聞きながら介護計画の見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診支援や、協力病院との連携による医療処置を受けながらのホームでの生活の継続支援、重度化した場合や終末期の看取り等、事業所の多機能性を活かした支援が行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やそのご家族が希望するかかりつけ医での、適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、入居の際の説明に加え、日頃から入居者本人やそのご家族ならびにかかりつけ医等と相談し、入居者にとって最良の方法について繰り返し話し合い、職員を含む全員で方針が共有されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの生活歴や日頃の様子を十分考慮し、それぞれの尊厳や羞恥心、個人情報の取り扱いに配慮した支援が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム側の都合を優先させることなく、何事にもゆとりを持って、入居者一人ひとりの希望やペースに合わせた支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を見てもらいその日の献立を一緒に決めたり、郷土料理の調理方法を入居者に教えてもらう等、一緒に食事を楽しむ取り組みが行われている。また、調理の下ごしらえや配膳、後片付けも、できることは一緒に行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯など一応の目安はあるが、一人ひとりの希望に応じ、夜間や毎日の入浴も可能である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴やできることを十分考慮し、入居者それぞれの力に合わせ、できる喜びを感じていただくように支援されている。(タオルたたみ、下拭たたみ、衣服のシワ伸ばし等)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地区のゴミ捨て場の掃除を職員と入居者が毎日の日課とすることで、近所の方と触れ合う機会をつくったり、散歩により戸外の空気を吸って自然を感じ気分転換を図るなど、日常的な外出支援が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員同士で連携をとり見守りを行うことで、鍵をかけないケアが実践されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や台風等の災害を想定した訓練が、定期的に行われている。訓練の際にはご家族や近所の方々にも参加していただくなど、日頃より地域の協力を得られるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は必要に応じ、介護記録において管理されている。栄養バランスについても協力病院の献立を参考にしたり、町の栄養士の指導を受けるなど配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	診療所を改造して開設されたホームのため、やや制約があるものの、入居者が集うスペースは、入居者と職員の作品や季節の花が飾られ、居心地よく過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の持ち込み等は少ないが、入居のために購入された新しいタンスの開け閉めを喜ばれるなど、入居者にとって居心地のよいスペースになっている。		